

アベノマスク 寄付先少なく

政府が配布した布マスク「アベノマスク」が県内にもほぼ行き渡ったとみられる中、マスクを寄付する動きが広がっている。受け付ける団体や企業は福祉施設などに届ける予定だが、施設側からはマスクを求める声が少ないのが実情だ。海外に贈る動きも出てきたほか、扱いに悩む団体も見られる。



ホルモン専門店「岩田屋」にマスクを持ち込む来店客
6月下旬、浜松市南区

6月下旬、浜松市南区のホルモン専門店「岩田屋」。朝からひっきりなしに車が入り、布マスクを手にした人たちの行列ができた。政府の布マスク1枚と店の豚ホルモン100gを交換する企画を4月末に開始。浜松市内にマスクが届き始めた6月中旬から寄付が急増し、同月23日で3635枚が集まった。マスクは名古屋市の女性を介し、フィリピンのスラム街などへ送ったという。岩田屋の広野早欧理代表取締役(42)は「お客さんへの感謝の気持ちを込めて始めた。こんなに多く集まるなんて」と驚きを隠せない。

県ボランティア協会(静岡市葵区)は5月中旬から、政

県内 宙に浮く善意 需要一服、汚れ気にする声も

読者コンシェルに
新型コロナウイルス
特集

府配布品を含む新品未使用の布マスクを募っている。8日までに個人や企業から8417枚が集まり、一部を豪雨に見舞われた熊本県人吉市へ送った。このほかの贈り先は、県内の子ども食堂1カ所にとどまる。

浜松市で老人ホームなどを運営する社会福祉法人は「春先に比べてマスクが手に入りやすくなった。ものすごく困っているということはない」と話す。同市のNPO法人では4月中旬から政府の布マスクの寄付を受け始めたが、今は呼び掛けを控える。汚れの問題などが指摘されているためだ。職員は「手作りの布マスクはデザインもかわいく喜ばれるけど、アベノマスクは先方も本当にほしいのか疑問。実際、最初に寄付されたマスクにはよく見たら小さな黄色いシミがついていた」と明かす。(浜松総局・土屋咲花)

Q 政府配布の布マスク
新型コロナウイルス
感染防止策として、政府が4月1日に全国の約5000万世帯に2枚ずつ配ると表明した布マスク。厚労省によると、県内では5月23日から静岡市を皮切りに配布が始まり、6月16日におおむね完了したという。既にドラッグストアなどではマスクの品薄状態が改善され、「いまさら」などの声が上がったほか、品質やサイズの小ささなどが指摘された。配布経費は466億円。